



自立支援ケア会議とは？

- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等より、事例提供をしていただき会議を実施。
- ・会議の目的は、事例を通して地域課題を発見・検討、自立支援に対する課題を協議。
- ・年に4回実施し、1回につき2事例検討
(第1回：6月12日、第2回：7月10日)
- ・参加者：サービス事業所、専門分野の助言者、地域包括センター、生活支援コーディネーター(SC)、鳥栖三養基医師会、鳥栖地区広域市町村圏組合(介護保険者)、市等

事例：90代、女性、要支援2、単身世帯

腰痛や下肢痛があり、買い物等の外出困難

⇒自分で買い物にいけないが、目で見たい、自宅で生活が続けたいというニーズをどう支援するか。

- ・移動販売「とくしまる」の紹介
- ・蔵上や宿町は大きなスーパーが無くなり、買い物難民が増えるかも…
- ・社協の「地域支援合い車両」の紹介

鳥栖市桜ヶ丘町において
実施されている免許返納
者の方への買い物支援



事例：80代、女性、要介護2、単身世帯

- ・手のしびれがあるが、調理は「自分の役割」と柱で体を支えながら調理を行っている。
- ・入院したこともあり、コロナの時期から、地域交流が少なくなり、孤独感が強くなった。

⇒一人暮らしの高齢者が地域での交流を続けていくためには？（孤独感軽減、孤立を防ぐ）

- ・鳥栖市 LINE、ホームページなど SNS を活用した情報収集方法もある。
- ・地域の特性として、若い人・こどもの人口も多いが、マンション等も多く住んでいる方の状況が把握しづらい。
- ・「グリップ式包丁」の紹介

作業療法士の方からの片手でも料理ができる便利な道具の紹介



工夫①

司会は包括主任ケアマネ、机を話しやすい距離に配置し、マイクは使用せず、参加者全員で、協議するようにしています。



工夫②

スクリーンに資料・地図を投影し、
参加者全員が協議内容を同時に共有
できるようにしています。



工夫③

名札をひらがな表記にすることで、親近感を持てるようにしています。





令和6年度第3・4回

自立支援ケア会議(A)だより



第3回（令和6年10月9日）、第4回（令和6年11月13日）の自立支援ケア会議Aを実施しました。
会議の中で話し合いを行った事例の紹介と第1～4回の話し合いでた地域課題をまとめてみました！



事例紹介①

事例：90代、女性、要支援2、単身世帯
膝や肩、関節に痛みあり。できる限り自宅で生活を希望している。バス停が遠い、徒歩が難しいことから、車での移動が必須なため免許返納ができない。

課題の概要

⇒自宅周辺の道路状況（傾斜あり）や公共交通状況等により、自宅での生活が継続困難である。

会議内容

- ・バスのステップが高く、バスの利用が難しい。（乗合のバス等があるとありがたい）
- ・公民館で実施している介護予防教室へ参加したいが、道路に傾斜があるため自力では困難。
- ・バスの乗車経験がない。まずはタクシー乗車など徐々に自家用車以外の利用を進めてみては？

事例紹介②

事例：80代、男性、要支援1、単身世帯
視覚障害により、近くの物しか認識することができない。服薬管理ができておらず、買い物も自力で困難である。

課題の概要

⇒視覚障害により、服薬管理や買い物が困難であるが、どのように地域の方の支援を得ていくか？

会議内容

- ・薬局に頼んで文字を大きく記載、色を付ける等頼んでみると、区別しやすいかも…（本人がどこまで見えるか要確認）
- ・ヘルプマークを活用し、周囲に助けを求めることもできるのではないかな。

鳥栖市の地域課題は？

自立支援ケア会議Aで話し合いを行った8事例を地域課題ごとに分類してみました！

地域課題	件数
地域交流	7
交通手段	5
居場所	2
その他	2

※1事例が複数の地域課題を抱えています。

1番多いのは『地域交流』、2番目に多いのは『交通手段』でした。事例でも、高齢者の単身世帯が多く、地域のつながりや交流が少なくなっており、孤立してしまっている状況があるようです。その要因として、運転免許返納等により自家用車が利用できないが、バス等の公共交通機関も利用できない等、交通手段が少ないことにもつながっていることが分かりました。